



2016年  
2月13日(sat)  
15:00- (開場30分前)  
2階造形スタジオ・入場無料

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館  
パフォーマンス・プロジェクト PLAY vol.02

塚原悠也 (from contact Gonzo)

盟友メコン・タイガーによるテキストを下地につくる「ヌカムリ・ジャミボスをめぐる21世紀の身体論」シリーズ  
第2弾「悲しみのロスト・ボディ・パーツを掻き混ぜろ!!! 編」

上演作品

「自分よりも遅いドライバーは一人残らず間抜けで、自分よりも速いドライバーはみんな偏執狂。」

概要：丸亀市の交通事故を調査しその特徴を分析することで、丸亀にふさわしい日常的な身体所作を考察するパフォーマンス作品。

「人類のためではないフューチャーポルノと、その作り方。」

概要：身体部位がバラバラに認識される昨今の我々のリアリティをベースに、未来に向けた物質間の関係性を著しく促進する映像を自動的に生成する。つまりライブ映像作品。



## メコン・タイガー / インタビューズ 「フューチャー・ジョブ01」

その番号をある日、雑誌の端に見つけ私はその会社に電話をかけました。そこでは、健康な体を持った人に仕事を斡旋します。私たちは巨大な敷地の施設に部屋を与えられ、そこで暮らします。そこには常時、100-150人くらいの労働者が待機していて、ランダムで呼び出されます。待っている間は、皆好きに過ごします。寝ていたり、食事をしたり、本を読んだりしています。

私たちは自分の番号が呼ばれると、その部屋を出て100個ほどの個室がある廊下に並ぶさらに小さな部屋に入ります。そこで赤いLEDの点灯するベストを身につけ、備え付けの白い旗を手に取ります。個室の中にはカメラが搭載されていて、夜間的高速道路などに並べられる液晶パネルに中継されます。

つまり私たちは、高速道路の工事を行う際に、旗を振り、その様子をライブ中継をする事によって工事中の安全を守ります。バカみたいな仕事だと思いますか。かつて車の自動運転というものがありました。結論からすれば人間の誰もそんなことは望んでいませんでした。自動運転の普及後、人間の運転は無意識に荒さを増し、その結果事故は増加して高速道路というものは大変危険な場所となり、たくさんの方が亡くなりました。この会社はそれを見越して設立されたのです。信州の山奥にこの施設がありました。とても清潔で、施設内に川が流れていたりもします。大昔の歴史的な彫刻も置いてありました。そこから全国に映像を発信します。何時間も、ときには朝まで旗を振り続けます。道路に並ぶ液晶パネルは、当然工事の規模にもよりますが、同じ映像が流れるものが5キロほど続く事もあります。これらのパネルは発注を受けてからリース品として同じこの工場から発送されます。

私たちは、上空を飛んでいる衛星から送られてくる工事現場の様子の映像を個室で見ることができ、いろいろな現場を毎日見ていました。そうして私は何年も旗を振っていました。大体1年で、20人くらいが入れ替わります。やる気があったとか、なかったとか、そういうことはあまり覚えていません。いずれにしても旗を振る映像のループよりも、実際の動きの中継の方が安全だということが、すでに実証されていました。この会社はこの事業で驚異的な成功を収め、のちにこれを世界規模にまで展開します。創設者はヌカムリ・ジャミボスという人工知能でした。かつて、スポーツ選手の脳波を買い取り軍事産業に進出した人工知能で、のちに芸術家としての活動や芸術史の研究をしていたとのこと。

私たちは退職時に、この会社の存在や場所、仕事内容など一切口外しないことを取り決める契約書を交わします。しかし、それと同時にこの会社が所有する美術品を収める倉庫の恒久的な入場券をもらいました。私は芸術には疎いですが、一度だけこの美術館を覗いたことがあります。沖縄のかつて基地があった敷地に誰にも知られることなく存在しています。広すぎて、1日で全部を見ることはできませんでしたが、印象に残っているのは大昔の人間たちがどこかの核シェルターで殴り合っている記録映像です。そこには様々なカーボンファイバーでできた過去の骨格標本なども大量にありました。

私はそこまで自分で車を運転して向かいました。

## PLAY

2014年から始まったパフォーマンスを紹介するシリーズ<PLAY>。表現が多様化する現代美術において、完成された作品だけではなく、より実験的な上演や制作のあり方を試みることで、作家にとっては表現を、美術館においてはその場所のあり方を、観客のみなさんにはこれまでの経験を更新する機会となることを目指しています。

PLAY vol.01-03では、塚原悠也 (from contact Gonzo) の活動を連続して紹介していきます (vol.03は2016年度開催予定)。昨年開催した vol. 01 では、塚原の盟友がメコン・タイガー名義で執筆を続ける「ヌカムリ・ジャミボス / 21世紀の身体論とともに」を下地に、丸亀で滞在制作した作品群「最新都市民族身体操作法」「身体の各パーツに宿る神がそれぞれ骨折をする」「無意識に毎日事故を回避している男の話」「オナラは断じて映像ではない (!!!)」「こどもはかわいい」を上演しました。丸亀で誕生したヌカムリ・ジャミボスという架空の人工知能をめぐるパフォーマンスは、執筆と同時並行に上演され、その内容や上演形態は毎回全く異なる様相を現わしていきます。塚原悠也の創造の過程を追い、その飛躍と変遷をこの場所で体感してください。

## 塚原悠也 (from contact Gonzo)

1979年 京都府生まれ  
2004年 関西学院大学文学研究科美学専攻修了  
大阪市在住

2006年にダンサーの垣尾優と共に「contact Gonzo」を大阪にて結成。公園や街中で「痛みの哲学、接触の技法」を謳う、殴り合いのようにも見える即興的な身体の接触を開始。contact Gonzoとして、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) や、アジア、ヨーロッパ各国でのダンスフェスティバルなどに多数参加。国内では森美術館「六本木クッシング」や国立国際美術館「風穴」展、山口情報芸術センター (YCAM) などでの現代美術展にも参加し、映像、写真、日記などを組み合わせたインスタレーション作品を発表。個人名義の活動としては、2014年にNPO法人DANCE BOXの「アジア・コンテンポラリー・ダンスフェスティバル神戸」や、東京都立現代美術館「新たな系譜学をもとめて 跳躍 / 痕跡 / 身体」展などでパフォーマンスプログラムのディレクションを行う。2011年より現在まで、セゾン文化財団フェロー助成の対象アーティストとして採択。

<http://contactgonzo.blogspot.jp>

memo

### 上演作品

「自分よりも遅いドライバーは一人残らず間抜けで、自分よりも速いドライバーはみんな偏執狂。」  
「人類のためではないフューチャーポルノと、その作り方。」

構成・出演：塚原悠也

テクニカル：松見拓也

日時：2016年2月13日(土) 14:30開場 15:00開演

場所：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 2階造形スタジオ

料金：無料

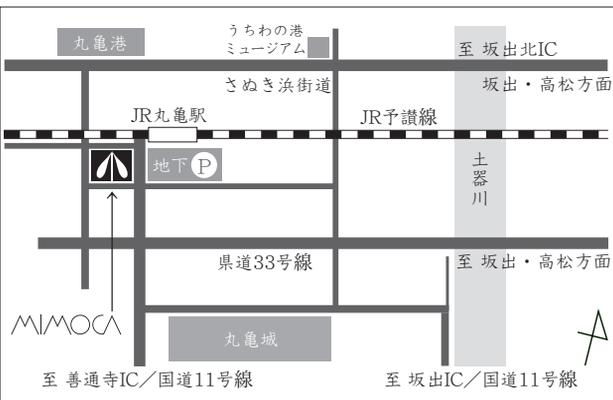
定員：100名(全席自由)

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1 (JR丸亀駅前)

TEL 0877-24-7755

URL <http://mimoca.org>



### アクセス

・鉄道 (JR)：丸亀駅下車、南口より徒歩1分  
岡山駅-[松山または高知方面行特急で40分]-丸亀駅  
高松駅-[予讃線快速で約30分]-丸亀駅

・飛行機：高松空港-[タクシー約40分/乗合タクシー約50分\*1/リムジンバス約75分\*2]-丸亀  
\*1 高松空港シャトル便 (1名片道1,700円/搭乗前日正午までの予約制/東讃交通0877-22-1112)  
\*2 空港リムジンバス (1名片道1,200円/琴讃バス株式会社 <http://www.kotosan.co.jp>)  
高松空港-[バス約40分]-JR高松駅-[予讃線快速で約30分]-JR丸亀駅

・高速バス：東京・横浜・名古屋・大阪・神戸・福岡より直通運行

・車：(本州方面から) [瀬戸大橋経由] 瀬戸中央自動車道 坂出北ICより約15分  
[神戸淡路鳴門道経由] 高松自動車道 坂出ICより約15分  
(四国内の高速道路から) 高松自動車道 坂出IC・善通寺ICより約15分  
\*JR丸亀駅前地下駐車場・2時間無料 (当館受付で駐車券をご提示ください)